第 18 回松江城調査研究委員会 議事要約

◆日時：令和 5 年（2023）2 月 3 日（金曜）13：00～15：15

◆会場：松江歴史館　歴史の指南所

＜開会あいさつ＞○事務局　松尾部長

＜出席者報告＞○事務局　飯塚課長

＜議事の公開について＞■清水委員長

＜議事(1)『論集 松江城（Ⅰ）』について＞説明○事務局　稲田副主任行政専門員

（委員からの意見・質問なし）

＜議事(2) 第 17 回委員会以降の経過報告について＞説明○事務局　木下係長

● **【調査研究】堀尾期松江城下町絵図（島根大学附属図書館蔵）蛍光Ｘ線分析調査**

＜説明：大矢委員＞

・東京文化財研究所副所長の早川泰弘氏とともに島根大学附属図書館が所蔵する堀尾期松江城下町絵図の蛍光Ｘ線分析調査を実施した。
分析の結果、江戸初期の堀尾期に描かれた絵図であることは間違いないと思う。
国絵図では水域を染料の藍を用いることが多いが、宍道湖の濃い青色は顔料の群青を用いていることが判明した。

● **【調査研究】矢田栄蔵（松江城天守昭和修理工事技師）所蔵資料調査**

＜説明：和田委員＞

・松江城天守の昭和修理工事の際の技師の一人である矢田栄蔵の資料を調査した。
中には解体日誌と建設日誌があった。解体修理報告書に記載のない仔細な図も書いてあり、貴重である。

■清水委員長

・報告資料③－５に、矢田栄蔵の日誌にあるメモに天守のいろいろな痕跡について書かれているが、この矢田メモの中身が最終的な修理工事報告書にどの程度盛られているかどうかについて比較されたか。

■和田委員

・メモにある情報は修理工事報告書には載っていない。井上梅蔵が松江城の解体修理の記録をかなり残しているが、矢田栄蔵のメモを使っているというように見てもいいのではないかと思っている。今回調査した矢田栄蔵の日誌等を令和５年度の松江城研究で紹介する予定である。なお、日誌やメモから千鳥破風の痕跡について工事が始まって間もない昭和 26 年 3 月 8 日に確認されていることがわかるが、新聞報道は 12 月までにずれ込んでいて、その背景は何かということも考えていく必要がある。

■山田委員

・私も関連して矢田さんの資料についてお尋ねしたい。まずは井上梅蔵以外にも資料が出てきて驚いている。それで、この写真で示されている矢田メモに「天守の様式の変更と思はるゝ点及三層以下の相違せる点」とあるが、矢田氏のメモはこの箇条書きだけなのか、それとも、これがなぜこういうことなのかという理由も示されているのか。

■和田委員

・示されていない。メモはこの写真にある１枚だけが入っていた。

■山田委員

・井上梅蔵資料にも同じようにこの項目があって、井上梅蔵資料はその後ろになぜそういえるのかという理由が入っているので、たぶんこれは井上梅蔵資料のフォーマットだけをこっちに書き起こしてあると思う。なのでやはり井上梅蔵がメインかなと思う。矢田栄蔵資料を井上梅蔵資料と対照することで理解できるのではないか。いずれにしても、大量の図面はとても井上梅蔵一人では書けないので、どなたか別の方がサポートしていたと思う。

■和田委員

・図面類を矢田栄蔵のご子息に確認していただいたところ、作図はうちの親父だなということは言われました。

■山田委員

・資料は今後どうされる。どういう状態に保管されるのか。

■和田委員

・写真データは松江歴史館にある。資料そのものは矢田氏が所蔵し保管している。ただ去年矢田さんとお会いした際に資料がなかなか出てこなかったこともあり、早い時期に何とかするとよいかもしれない。

●【調査研究】大橋川河川改修事業に伴う発掘調査（島根県埋蔵文化財調査センター）

※松江城下町遺跡　白潟地区＜説明：オブザーバー 西尾松江城部会長＞

■松尾委員

・大橋川河川改修事業に伴う松江城下町遺跡（白潟地区）の発掘調査で出土資料について、現地を確認したので、私が思っていることをコメントする。

現地説明会の資料では古そうに書かれている印象がある。主な出土遺物として紹介されている犬形土製品は、1600 年前後、1598 年とかでないと出てこない。城館だけでなく町屋でも出てくるもので、時代として堀尾の頃でもいいかなと思う。青銅製の分銅としているものは富田城ではたぶん出ないもの。分銅というよりも徳川幕府ができたぐらいからの竿ばかりのおもりだと思う。陶磁器も唐津の輪花皿など慶長年間に出てくるものが多く見られる。1600 年の初頭ぐらいのものだという印象を受けた。備前焼のすり鉢、中国の白磁皿、無文銭といった古いものもでてくるけど、主な時期は江戸初期まであがるような印象をもつ。

■清水委員長

・大橋川河川改修事業に伴う松江城下町遺跡（白潟地区）の発掘調査に書かれている蔵が大きいのか小さいのかがよくわからない。

■松尾委員

・私の感想だが、この蔵というのは穴蔵・地下蔵ではないか。

○オブザーバー 西尾松江城部会長

・地下ではないと思う。

■松尾委員

・2区の右側にある一般県道母衣町雑賀町線が白潟の大通りで、2区はおそらくそこに間口が面している屋敷地だと思う。蔵はその間口から一番奥にあってしかるべきだと思うし、蔵のスケールも小さい感じがする。もしかしたら地下蔵の基部だけが見つかっているのかもしれない。

16 世紀末とか 17 世紀初頭の蔵は、礎石が並んでなんとかわかって、礎石と礎石の間の壁は粘土が立ち上がったりする。あるいはそこに「せん」という瓦のようなものを立てて壁を守るが、それがちょっとわからない。なので私も、この蔵の規模がよくわからないと思っていた。

■和田委員

・ここは当初から町屋だったと思うが、その解釈はどうか。

■大矢委員

・その場所は正保の国絵図では大橋川になっている。その後そこが埋め立てられて町人地になる。

■松尾委員

・そうすると地盤が成立するのはちょっと後になる。堀尾のときにはない。

■大矢委員

・そのときには売布神社だけがあった。

■松尾委員

・そのほかにもう一つ、この発掘調査でヨーロッパ陶器が出土している。イギリスかオランダあたりのものかと思うが、日本に入ってくるのは天保年間。大阪の蔵屋敷とかでも出土する。松江にもヨーロッパ陶器を求める人がいたのかと思う。

■大矢委員

・松江の廻船問屋の客船帳を見ると、松江藩の廻船が洋物を積んで新潟県の方に向かっている。それも天保年間である。

●【情報発信（刊行物など）】＜説明：事務局　木下係長＞

（委員からの意見・質問なし）

●【世界文化遺産登録推進】ICOFORT からの報告　＜説明：三宅委員＞

・ICOFORT というのはイコモスの下にある国際学術委員会の一つで、城塞・軍事遺産国際委員会のことをいう。いわゆる城塞や軍事遺産を扱い、古代から近代までを対象にしている。その国際委員会のもと各国にそのナショナルコミュニティというのがあり、日本にも ICOFORT の国内委員会がある。国内委員には松江城調査研究委員会の中井副委員長も入っている。

・2022 年 10 月から新体制となり、韓国の趙斗元氏が委員長となった。知日派で日本の城郭についても詳しい。

・ICOFORT では日本の城郭の世界遺産化をよく話題にしている。

・次回の ICOFORT 研究会議は中国の南京で行う予定。コロナで延期となっていたが、今年の 11 月に開催する方向で検討中。

・東アジアに関しては日本・中国・韓国の城郭に関する用語集を準備中。月例会議の形で検討を進めている。

・2025 年が松江城天守の国宝指定 10 周年ということで、そのお祝いを兼ねて日中韓だけでなく世界から来てくれるような ICOFORT の国際会議を松江で開催し、お城の問題、天守の問題、世界遺産の問題を議論するような場として設定してはどうかと考えているので、松江市としてご検討いただけるとありがたい。

■清水委員長

・現在取り組んでいる「近世城郭の天守群」について海外の専門家からどのような意見が出ているか。

○事務局　木下係長

・松江市・松本市・犬山市で構成する近世城郭群世界遺産登録推進会議準備会では専門家を交えたワーキンググループで意見交換を行っており、先般 1 月 23 日には世界遺産に通じた海外の専門家とのオンライン意見交換会を実施した。そこで近世城郭の天守群という枠組みやその価値については理解できるというご意見をいただいた。

■清水委員長

・三宅委員から ICOFORT 松江会議の提案に対し、松江市のお考えは。

○事務局　飯塚課長

・令和 7 年の国宝指定 10 周年での開催に向けて取り組んでいきたいと思う。

＜議事(3) 令和 5 年度の『松江城研究』 について＞説明○事務局　木下係長

（委員からの意見・質問なし）

＜議事(4) 今後の調査研究の推進について＞説明○事務局　木下係長

■中井副委員長

・一つの城で既にたくさんの情発信、毎年の松江城研究、それから今回の「論集松江城」の刊行など、松江市史以降こういった研究が続けられている。行政がこれだけのことをやっていることを考えると、我々委員は何らかの形で還元をしなければならない。

・調査研究が将来的な城の保存や整備につながっていくが、調査研究できているところはそれほどない。松江城での調査研究は今後とも続けていくべきで、委員として協力していきたい。

・効果的な調査研究成果の発信には、そのタイミングも大事になる。松江城天守の国宝

指定 10 周年という節目には松江城調査研究委員会としてできることがあれば協力をしてきたい。海外の方からも寄稿を受けての「論集松江城（Ⅱ）」の出版、ICOFORT の松江開催や市民や若い方にも聞いてもらえるような歴史講座の開催なども考えられる。

■清水委員長

・松江城研究の活性化のためには、若い研究者が育つということも大事。研究への公募制の助成金なども考えられる。調査研究の進展のためには、その土台となる基礎資料集の刊行などは引き続き取り組んで積み重ねていくことを望む。

＜議事(5) その他＞説明○事務局　木下係長

●【松江城天守 VR 体験】＜説明：事務局　木下係長＞

・委員会終了後には、同志社大学文化遺産情報科学調査研究センターと松江市との連携協定に基づいて製作した松江城天守 VR を体験していただく。

■清水委員長

・8 月から実施しているこのことだが、利用状況はどれくらいか。

○事務局　木下係長

・土曜日と日曜日、企画展開催時の金曜日午後に実施しているが、秋ごろまではほぼ満杯の状態だった。

■和田委員

・この VR は松江城の天守内部のみだが、本丸、二之丸、三之丸あるいは城下町などはどう考えているか。また、史料調査課では楽山をテーマに研究しているが、そのような場所での VR などもどう考えているか。

○事務局　木下係長

・松江市は同志社大学の文化遺産情報科学調査研究センターと連携協定を締結して ICT を用いた文化財の活用に関する共同研究に取り組んでおり、今回の天守 VR もその

一環で製作したものである。現在は田和山遺跡での AR・VR の活用に取り組んでいる。また、復元した大手門や天守 5 階からの江戸時代の城下町景観については、観光分野ですでに VR を製作しており、スマートフォンを利用して見ることができるようになっている。

■清水委員長

・その他、委員会全体を通して意見・質問はあるか。

■山田委員

・松江城天守の昭和の解体修理を担当した井上梅蔵の孫から、今年の 1 月 26 日に連絡があった。昨年 10 月 15 日に松江城講座で講演した井上梅蔵の仕事と資料を YouTube で見て連絡したとのこと。話をする中で、これまでわからなかった井上梅蔵の家族構成などを知ることができた。また、井上梅蔵が松江城天守修理後に携わった仕事に関する資料も段ボール 4 箱分残っているとのことであった。3 月にその資料を調査に伺う予定である。なお、井上梅蔵の孫から、この資料をできれば出身地での収蔵を望んでおり、ほかの井上梅蔵資料を既に収蔵している松江歴史館で受け入れてくれるとありがたい。現在取り組んでいる井上梅蔵資料のリスト化はなるべく早く終わらせるようにしたい。

■清水委員長

・それでは、本委員会に係るすべての議事を終了した。大変ご協力いただきありがとうございます。それでは、進行を事務局にお返しする。

＜開会あいさつ＞○事務局　松尾部長